

実践 ファイル

第3回お茶大こども園フォーラム報告 実践や体験を通して語り合い学び合う

内海緒香

(大学教員)



「お茶大こども園フォーラム」が、お茶の水女子大学本館講義室・講堂・こども園を会場として2019年2月17日に開催されました。午前にワークショップと分科会を行いました。午後は講堂内のポスター掲示、開園以来積み重ねてきた実践研究の発表、3園合同研究会を構成する附属幼稚園やナーサリールからの報告、研究者・保護者・保育者を交えた講演と対話を行いました。プログラム全体を通して、新しい保育の在り方、課題と可能性について、対話し共に考えあうことを大切にしました。さらに、3年間のまとめとして、

お茶大こども園実践記録集「こども園の大きな挑戦―日々の保育・研究のキセキ」を上梓し、午後の部に参加された皆様にお配りしました。ここでは、ワークショップや分科会の様子を要約して報告いたします。

ワークショップ① 感じる×アート×遊ぶ

講師 瀧田節子（清和大学短期大学部特任講師）

〈内容〉身近な素材に触れて遊ぶ体験。子どもたちの取り組みを展示で紹介

初めに瀧田先生から、写真やスライドを使ったお話を聞きました。その後、各自持ち寄

った布を使い自由な表現を楽しむワークショップを1回体験しました。その様子を写真に撮り、それをスライドに映して、皆で共有しました。2回目も同じワークを行いました。1回目と2回目で全く違う表現になり、楽しさが広がりました。積極的にフレンドリーな方が多く、皆それぞれ交じりあって楽しんで参加していたことが印象的でした。伸びやかな表現遊びの意味を感じる豊かな時間になりました。

(記録 星野)

ワークショップ② 探究プロジェクト

講師 刑部育子 (お茶の水女子大学准教授) 他

〔内容〕風や光を感じ遊ぶ体験。経済産業省『未来の教室』実証事業の取り組みの紹介

前半は、DVDの映像を見るコーナー、探究プロジェクトのデバイスのコーナー、保護者アンケートや子どもの様子の掲示のコーナ

ーを、グループごとに回りました。デバイス制作者の杉浦正衛さんがデバイスの作り方や思いを積極的に参加者に語っていた姿が印象的でした。

後半は、東京藝術大学の須永剛司先生をゲストにお招きし、STEAMについてディスカッションを行いました。探究プロジェクトの成立過程や実践の意味について関係者や参加者の間で語りあい、ライブドキュメンテーションを作成しました。

(記録 粕川)

ワークショップ③ 虫博士入門

講師 溝井明人 (日本昆虫協会)

〔内容〕身近にいる虫とかわるコツを学ぶ

虫捕りの道具や昆虫の標本、こども園で飼育している虫などを展示し、講義室が虫博物館のようになりました。小さな生き物の息遣いを感じる中で、講師より昆虫についての話

を聞きました。

「虫を捕ったらかわいいそうという考えがなぜ出てきたのか」「虫を手にとって感触を味わうというところが大事だと思う」という溝井先生の話に、会場の参加者は大きくうなずいていました。参加者からこのワークショップに参加した動機や質問などを受け、一つ一つ答えていただきました。小さな生き物へのまなざしや接し方のコツ、子ども時代に小さな生き物に親しむ意味など、深く学ぶことができた時間でした。

(記録 古賀)

分科会① インクルーシブな保育

講師 大藏みどり(お茶の水女子大学研究協力員)
〈内容…子どもたちの在り方を受けとめ保育する日々の実際について語りあう〉

講師の自己紹介の後、事例を三つ紹介しました。一つ目が、「動くことが楽しくなる工夫」で、子どもの状態に合わせて作成した膝あて

について紹介しました。二つ目の事例は「思い切った方針転換」で、給食が苦手な幼児のためにお弁当を持参するようにした事例です。三つ目は「写真ブック」を作ったことで語り合いのきっかけをつくった事例です。その後、「ざわざわタイム」(フリートークの時間)を設けました。提案された事例について語りあう姿が随所に見られました。

その後、講師から、インクルーシブ保育の在り方や子どもの困り感について、保護者のニーズ、多様な活動場面と多様なかわり等についての提言があり、それを受けてグループで話しあいました。

(記録 内野)

分科会② 食の喜びが広がる食育

講師 太田百合子(東洋大学講師・管理栄養士)
〈内容…園での「食育」の在り方について実践例を通して検討〉

本園と関東学院六浦こども園の実践事例紹

介を行いました。グループワークでは、「食育における園内連携」「食育につなげる子どもとの対話」「食の喜びが広がる食育」をテーマとして話しあいました。

参加者から、「企業内保育所のため0〜2歳児までしかないのです、どういう食育をしたらいいか悩んでいる」という質問が出ました。講師より「保護者を巻き込んでいくことが、子どもたちの食の意識を高めることにつながるのではないか」という助言を頂きました。最後に、食育はまず養護が土台となり進んでいくので、情緒の安定や、子どもと向きあうことが大切という話がありました。

(記録 川島)

分科会③ 園内研をデザインする

講師 川辺尚子 (保育のデザイン研究所)

〈内容〉園内研の意義を共有し、より効果的に

運営するヒントを探る

最初に園内研修の重要性や意義を確認し、本園の園内研究会の取り組みや、振り返りの結果について提案し、最後に講師の川辺先生から園内研についてお話を頂きました。その後、グループに分かれ、1枚の写真を見あい気づいたことや考えたことを付箋に書き、それを台紙に貼り付け、それを別のグループが見て話しあった内容と重ねていくというワークを行いました。

1枚の写真を見あいながら、参加者は想像力を働かせ積極的に話し合いを行いました。いろいろな見方が出てきて、「人それぞれ子どもの見方や場の見方は全然違う」という話が出ました。最後に、「ファシリテーションに必要な条件」についてグループで話しあい、その結果について川辺先生が付箋をボードに貼り付け、分類しました。

(記録 七里)